

鈴鹿の風

すずかのかせ

VOL.
56

筋ジストロフィーの遺伝子

院長 久留 聡

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌



学会発表
第4回生き生き健康フェアを開催しました
療育指導室からのお知らせ
職員コーナー
地域連携室よりお知らせ
名誉院長の部屋



筋ジストロフィーの遺伝子

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院 く 久留 さとし 聡



筋ジストロフィーは遺伝子の病気で、遺伝子とはタンパクの設計図と考えていただくとよいと思います。この設計図にミスがあると蛋白を全く作れないか、不完全な蛋白しか作れないので不具合が生じます。筋ジストロフィーには様々な病型があって、病型によって原因となる遺伝子や遺伝形式が違います。今からちょうど40年前の1986年にデュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)の原因遺伝子としてジストロフィン遺伝子が同定されました。ジストロフィン遺伝子はとても大きな遺伝子であり、ジストロフィン蛋白をコードしています。ジストロフィン蛋白は筋肉組織や脳で重要な役割を担っているため、この蛋白がうまく機能しないと筋ジストロフィーを発症すると考えられています。ジストロフィンの発見以来、研究が続けられて、疾患の進行を遅ら

せることができる可能性のある治療薬が開発され、ついに遺伝子治療薬が日本で承認となりました。ようやく治療の時代のスタート地点に立てたと言えます。

DMDにつづいて他のタイプの筋ジストロフィーの原因遺伝子も次々と見つかったのですが、なかでも難渋したのが顔面肩甲型筋ジストロフィー(FSHD)です。遺伝子座が4番染色体のテロメア側(一番端っこ)にあることまでは分かっていたのですが、そこから中々進みませんでした。それでも長い長い研究の結果DUX4遺伝子が原因であることが突き止められました。生体において遺伝子の発現は極めて精密に制御されていて、適切な時期に適切な組織に必要な遺伝子が発現しなければなりません。このDUX4遺伝子が筋組織に発現すると不具合を起こしや

すいので、蛋白に翻訳されないように鍵がかかった状態(メチル化)となっています。ところが、FSHD患者では鍵が開いた状態なのでDUX4遺伝子が発現して筋組織に悪影響を及ぼしていると考えられます。FSHDは他の筋ジストロフィーに比べて顔面筋が障害されやすく、罹患する筋に左右差が目立ち、同じ遺伝子変異があっても重症度や発症年齢に差があるなど謎の多い筋ジストロフィーと捉えられていました。これ等の現象にはひょっとすると発症メカニズムの複雑性が関係しているのかも知れません。しかしDUX4遺伝子が発見され、これを標的とする治療薬も開発されつつあって現在治療も行われています。治療ができるようになる日が近づいていると思います。

学会発表

第79回国立病院総合医学会

令和7年11月7日、8日の両日、石川県において第79回国立病院総合医学会が開催されました。当院の職員も発表を行いました。

開催地である金沢市は好天に恵まれ会場には約5000人が参加し賑わっていました。今回「生体情報モニタの受信ノイズ悪化を経験して」という表題で発表しました。当院で発生したモニタトラブルを原因分析し改善につなげ、それを維持しているといった内容の発表でした。会場では当院の活動をご評価いただけた一方で他施設のスタッフを巻き込んだ活発な議論になり大いに盛り上がりました。今後もモニタに限らずトラブルが起きないよう最大限努力してまいります。最後に、今回の発表をまとめるに当たり御協力・御指導頂いた患者様・先生方に深く感謝致します。臨床工学技士 人見 允隆



国立病院総合医学会に座長として参加し、神経筋疾患リハ・多職種連携のセッションを通して、日々の臨床を整理することで学びを深め、発信することで共有されることに大きな意義を感じました。リハビリスタッフ4名は、HAL®の効果、モニターアームの取り組み、筋ジストロフィー患者や重症心身患者の身体機能の改善を発表し、また新たな知見を得る機会になりました。異動したスタッフは、「塩田賞」を受賞し、大変嬉しく思いました。今回の経験を糧に、これからもスタッフと共に、臨床やチーム医療の質の向上に取り組んでいきたいと思ひます。

理学療法士長 鈴木 ちか

『患者さんたちとの療育活動の実施場所について検討した内容「超・準超重症児者の自室外療育活動への取り組み」』を第79回総合医学会にて発表をいたしました。

当日は、「患者さんの変化は何かありましたか?」という質問を頂きました。実際、「1番には、笑顔が増え、表情の変化がありました。散歩で外に出ると発声される患者さんもいらっやいます。」とお答えしました。学会に参加したことで、患者さんの変化を改めて考える機会になり、緊張しましたが良い機会が得られたと思っています。

学会に参加することは、自らの発表だけではなく、他施設の取り組み等を知る機会にもなりました。小児病棟や重心、筋ジストロフィーの他施設の取り組みを傾聴し様々な支援の仕方や患者さんの様子を学ぶことが出来ました。

また今回の発表にあたり、抄録やポスター制作でたくさんの方々にご指導、ご協力いただき発表することが出来たことをこの場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今回、学んだことを今後の業務に活かしていきたいと思ひます。

保育士 有富 小奈子

第4回 生き生き健康フェア 開催しました

令和7年11月26日(水)、イオンモール鈴鹿において、生き生き健康フェアを開催しました。当日は健康チェック、手洗いチェック、相談コーナー等のブースを設け、多くの方にお立ち寄りいただきました。



療育指導室からの お知らせ

第50回 重症心身障害学会学術集会にて 公開ファッションショーに参加してきました。



こ・国立病院機構三重病院・国立病院機構鈴鹿病院)がSmid50ファッションショー企画チームとして協力し、定期的にミーティングを行い、企画・運営しました。全体のテーマは、三重県の地で開催するというので、「三重を着る」とし、四日市の万古焼や伊賀くみひもをアクセサリにしたり、伊勢木綿や松阪木綿の生地を装飾した服にしたり、伊勢型紙の紋様を服にデザインしたりしました。各施設の患者さん・利用者さんたちがモデルになり、ファッションショーを行うので、着心地のよさ、着やすさ等の機能面を考慮しました。もちろん、ご家族や職員の思いを取り入れつつ、患者さん・利用者さんの個性や特性も発揮できるようなデザインにするためには、なかなか思考を凝らしました。

重症心身障害学会学術集会では、重症心身障害の皆さんによるファッションショーが開催されます。各地域でさまざまなテーマを設け、いろいろなアイデアとともに、素敵な衣装が発表されています。今回、記念すべき第50回を三重県の地で開催することになり、三重県内の3施設（済生会明和病院などし

インパクトや派手さはないかもしれませんが、各施設の職員・ご家族・地域の皆さんが協力し、手作り感あふれる、アットホームなファッションショーを開催することができました。出演した鈴鹿病院の患者さん4名も、とっても楽しく、最後まで笑顔いっぱい、参加者家族からも「楽しかった」「いい思い出になった」という感想をいただき、とても素敵な機会になりました。本ファッションショーは、中日新聞(2025.11.23)にも掲載されました。

療育指導室 酒井達司・丸澤由美子



職員 コーナー



Y.I (コメディカルスタッフ)
我が家の愛猫「まるちゃん」です。シンガプーラという品種でその名の通りシンガポール出身の猫。現存する純血種の中で世界一小さいといわれている猫です。まるちゃんも今年で7歳になりますが体重は2.3kgほどしかありません。少し神経質で顔見知りなところがありますが夜は同じ布団の中で朝までぐっすり寝てくれます。これからも毎日楽しく過ごそうね！
(Instagram@ikhrymt)

ハートフルYUKOさんをご存じですか???

鈴鹿病院の正面玄関から入って左側に地域医療連携室というお部屋があります。そのお部屋の廊下側壁面にたくさんのイラストとポエムの作品が飾ってあるのをご存じでしょうか。ご覧になられた方もいるのでは…と思います。

その作品を製作しておられるのは、本院に入院されている患者さんで、「ハートフルYUKO」さんと言います。イラストやポエムを描くことが大好きです。最初は個人的にイラストやポエムを描き、職員に見せていました。しかし、「せっかく素敵なイラストやポエムを描いているのだから…」という思いでいた職員は、ハートフルYUKOさんに「もっとたくさんの方々に観て頂きませんか?」と提案しました。最初は驚いた様子のハートフルYUKOさんも、職員の応援によりたくさん作品制作に取り組み、病棟内に展示する機会を得ました。多くの職員が鑑賞する中で、「せっかくだから、病棟以外の皆さんにも見てもらってはどうか?」との声があがりました。

病棟内から地域医療連携室の廊下側壁面へ場所を拡大し、定期的に展示させて頂ける機会を得ました。作品を観た方々からは「個性的で素敵な作品!」「絵が可愛い」などの感想を頂きました。ハートフルYUKOさんも「たくさんの方に観てもらえてうれしい!!」と、より意欲的に取り組んでおられました。その姿を見た職員が「こんなにたくさん作品をこのままではもったいない。ぜひ、病院外の皆さんにもたくさん観てもらおう機会を!」ということで、百五銀行平田町駅前支店の一角をお借りして、2025年2月~3月まで展示させて頂ける機会を得ました。そこでは、本当にたくさんの方々の出会いがありました。「季節ごとに生活を楽しんでいるのが伝わる作品ですね」「いろいろなテーマの絵があり、見て楽しくかったです」という感想や応援メッセージもいただき、ハートフルYUKOさんにとっても、元気を得られた機会になったそうです。

ハートフルYUKOさんの作品は、現在も地域医療連携室横の壁面へ定期的に展示しています。とっても感性豊かな作品ばかりです。鈴鹿病院へお立ち寄りの際は、ぜひご覧になってください。



私の心の中に存在している秘密のお城
お城の主は私
特別な人たちだけが招待される
素敵な夢のような皆の秘密基地
ハートフルYUKO

療育指導室 鈴木みえ・丸澤由美子

地域医療連携室だより

神経難病の患者さん レスパイトいかがですか?

- ・ご家族のリフレッシュ
- ・ご家族の急病やケガ、入院
- ・冠婚葬祭
- ・ご家族の出張、旅行
- ・ご家族の出産

◎正面玄関入って左側の
医療福祉相談室にご相談ください(電話相談可)
TEL059-378-1321(代)
ご相談は平日8:30~17:15にお願いします



お問い合わせ 独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院 地域医療連携室 医療福祉相談室
電話:059-378-1321(代) FAX:059-379-6670(直通) お問い合わせ時間:平日8:30~17:15

名誉院長の部屋

塩田 賞

名誉院長 小長谷 正明

令和7年11月7日、久しぶりに金沢を訪れた。ズワイガニを買うためではない。令和6年春に鈴鹿病院から東名古屋病院リハビリテーション学院教官に移動した堤恵志郎君の論文が、第79回国立病院総合医学会で「塩田賞」に選ばれ、その記念講演会があるというのだ。それに参加するために、延伸したばかりの北陸新幹線に敦賀駅で乗り継いでやってきた。「塩田賞」とは、国立医療学会誌である『医療』の前年の論文から国立病院長たちの投票で選ばれた優秀論文に授けられ、第二次世界大戦直後に旧陸海軍の病院を国立病院・療養所として新たな出発を指導した塩田広重先生（医療局長）の名を戴いた、名誉ある賞だ。

堤君の論文のタイトルは『HAL®歩行運動装置が筋難病患者の左右バランスに与える影響について』¹⁾であり、共著者の最後に僕も連なっている。HALとは、いわゆるロボット・スーツのはしりで、筋肉を動かす時の微弱な電流を皮膚で感知し、それで装置を駆動して歩行を補助するリハビリ器具だ。HALを導入したのは2015年春で、堤君が手を挙げて担当となった。早速、翌年に沖縄であった総合医学会で『ロボットスーツHAL®の使用経験』を発表し、ベストポスター賞に選ばれた。これが励みとなり、症例数を増やすだけでなく、歩行パターンのビデオ記録はもちろん、測定装置を使って計測し、訓練効果を客観的に明らかにした。そして、データ整理や論文執筆に相談を受け、僕も無い知恵を絞らせてもらった。その結果が今回の塩田賞となったのだ。

塩田賞論文講演の会場は、総合医学会会場の石川県立音楽堂メインのコンサート・ホールで、晴れの舞台には打っ

てつけた。ところが、事前に受賞論文の告知がなかったせいもあってか、聴衆は関係者だけらしく、1500席もの座席はまばらでいささか寂しかった。それでも堤君はいつものように目を見張ったポーカーフェイスで講演をし、HALを導入してくれた院長先生たちと、久留先生と並べて僕の写真を映し出してくれた。また、HALの実践風景として南山副院長の診察場面も映写していた。晴れがましさのお裾分けだ。

実は、鈴鹿病院は、過去にも2回ほど塩田賞論文を出している。

最初は2001年で、当時の病院長だった松岡幸彦先生の『スモン患者194例の過去10年間の追跡調査（1990—1999）』²⁾である。先生の前任の飯田光男院長の時代から、薬害性難病スモンの調査研究班の中心的な役割を当院が担っており、10年間の検診データを松岡先生がまとめられたものだ。いかに先生らしくじっくりとした研究である。一貫してスモン研究班の業務に携わってきた僕も共著者に加えてい



記念講演する堤恵志郎君

ただいた。おそらく、松岡先生からのご苦勞様プレゼントだろう。受賞を置き土産にして、先生は東名古屋病院長に栄転された。

2009年には、栄養主任だった宮崎とし子さんが『筋強直性ジストロフィーの安静時エネルギー代謝量の検討』³⁾が受賞した。結論からいうと、この病気の安静時エネルギー代謝量は、筋肉量あるいは知能指数と正の相関があるというものだが、宮崎さんは栄養学雑誌に『神経難病患者における安静時エネルギー代謝量と脳萎縮との関連』⁴⁾という先行論文もあり、研究が発展したのだ。

まだ僕が神経内科医長だった頃、パッチリ目だが楚々とした風情の栄養士さんがやってきた。ゴヤの名画の“ポルドーのミルク売り娘”に似てなくもない。だが、真面目な話だった。呼吸中の酸素消費量からエネルギー代謝量を測定する機器で研究をしたいと。もちろん、二つ返事でゴーサインだ。自分でも興味があるテーマだし、筋ジス4班



ベストポスター賞に喜ぶ堤君

の栄養研究の担当幹事にもなっている。僕が病院長になってもからも研究は続き、栄養事務室での院長検食は、時には宮崎さんとのディスカッションで、胃袋だけではなく脳みそも一杯になったものだ。控えめで、大人しい感じの人だが、どこにそのヴァイタリティーがあるのだろうかと思う程に、何十例もの患者さんを慎重に根気よく検査をしていた。総合医学会や研究班の会議の前には、データ整理とスライド造りに集中しており、その都度、僕もあれこれと手を入れた。やがて彼女は榊原病院の栄養管理室長に栄転して行ったが、なおも論文を書き続けていた。仙台であった総合医学会での淡々として抑えた口調の受賞講演を、彼女にとって人生のハイライトの時間だなど耳を傾け、最後の思いがけない僕への謝辞に、達成感を一緒に浸ることができた。

鈴鹿病院の医療職の面々は昔からから研究熱心で、学会や筋ジストロフィー研究班などでたくさん発表してきている。リハビリの訓練士や児童指導員、臨床工学士の諸君からの発表も少なくはない。看護師さんも、毎年々々多くの発表をしているし、時には感心するような独創的なものもある。ベストポスターもしばしばだ。しかし、ポスターや口演でその場限りの発表に留めておくのは勿体ない、客観的な分析を加えて論文にして欲しいものだ。きっと、今回の塩田賞は、さらなる研究や臨床の励みになるに違いないと、堤君のハキハキとした口調の講演を聞きながらそ

う思った。

(以下、蛇足) 塩田賞では記念メダルもいただける。共著者の僕もいただいた。堂々たる押し出しとは言わないが、権威ありげなお顔が刻まれている。顔に微かに見覚えがある。高校の図書館にあった『メスと鉗』という立派な装丁本の著者の写真だ。東京大学と日本医科大学の名誉教授だった外科の偉い先生の自叙伝だ。なぜ、そんな本が田舎の高校の図書館にあったのかは謎だが、借り出して読んで将来の道を考える参考にしたり、日本の近代史の生きた証言としても興味深かった。その後、古書店で見つけたので、求めて、今も書棚に並べている。

塩田先生は、東大助教授時代に、日赤救護班医長として第一次世界大戦下のパリに派遣され、野戦病院で輸血の効果の素晴らしさを実感し、戦後に日本に導入した。そして、テロ事件が相次いだ昭和前期、昭和5年（1930年）には、東京駅でピストル銃撃を受けた濱口雄幸首相を駅長室で、昭和11年の2・26事件では、決起した青年将校に銃撃された鈴木貫太郎侍従長（海軍大将）を現場の侍従長官舎で輸血して治療している。侍従長襲撃の一報でいち早く駆けつけたのは、宮内大臣秘書官だった町村金吾氏で、僕の遠縁の方だが、すぐに連絡した塩田博士到着と

同時に多くの若者が集まってきたと語っておられた。その場で血液型を判定して、適合した血液型の若者から輸血した。枕元輸血という。こうして一命を取り留めた鈴木大将は、昭和20年には内閣総理大臣となり、断末魔の日本を終戦へと導いた。

塩田賞の燦し銀のメダルは重みがあり、塩田広重先生は国立医療機関だけではなく、戦後日本の恩人でもあったのだと感じさせる。

- 1) 堤 恵志郎ら：医療 78:250-255,202
- 2) 松岡 幸彦ら：医療 54:509-513,2000
- 3) 宮崎とし子ら：医療 62:674-678,2008
- 4) 宮崎とし子ら：栄養学雑誌 59:27-30,2001



塩田賞メダル



講演する宮崎とし子さん

■ 外来診察担当表 (2026年2月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳神経内科	南山	小長谷	久留	小長谷	久留
	野田	酒井		木村	
内科	野口	田中滋		落合	
		落合			
小児科		予約(村田)			予約(村田)
整形外科		田中信			田中信
		(装具外来)			
リハビリテーション科	担当医	田中信	担当医	田中信	田中信
皮膚科		室(午前)			
歯科	永田(午前)	北村(午後)		永田(午後)	
禁煙外来	野口(予約)			落合(予約)	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車15分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



編集後記

寒い日が続いておりますが、暦の上では春となりました。
寒くて空気の乾燥する日々が続きます、体調を崩さぬよう
ご自愛ください。

契約係 鈴木梨乃

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321(代) Fax 059-378-7083 <https://suzuka.hosp.go.jp>

令和8年2月発行